and Pakistan (excluding Bambuseae). Pergamon Press, London. Hara, H. et al. 1978. An Enumeration of the flowering plants of Nepal Vol. 1. British Museum (Natural History), London. Hooker, J.D. 1896. Gramineae. *In* Fl. Brit. Ind. Vol. 7. L. Reeve & Co. Philipson, W.R. 1935. Abnormal spikelets in the genus *Agrostis* Linn. Journ. Bot. **73**: 65–75. Widén, K.-G. 1971. The genus *Agrostis* in eastern Fennoscandia. Taxonomy and distribution. Flora Fennica 5, Helsinki.

*　　*　　*　　*

本報はネパール産ヌカボ属についての第2報で，4種について記載した。*Agrostis nervosa* と *A. pilosula* に見出されたネマトーダによると推定される異常な形態をした小穂についても記述を行った。また，前報で取扱った種で，その後に検討した標本を挙げ，分布情報の充実に努めた。

□富山市科学技術センター（太田道人 編著）：**進野久五郎植物コレクション**（富山市科学技術センター収蔵資料目録第1号）222 pp. 1987. 非売品. 富山県の植物研究家として知られる進野久五郎氏(1900〜1984)は，晩年採集標本を富山市科学技術センターに寄贈された。同センターは学芸員太田道人氏を中心にその同定・整理を行う一方，大型計算機によるデータベース化を行ったうえ，このたび目録に作成した。科は分類順配列で，種子植物は大井(1983)新日本植物誌に従っている。種の配列は学名のＡＢＣ順で，学名，和名を併記する。標本の引用はすべて県からはじまる産地名，採集者，年月日(略記)，標本番号が記されている。巻末に和名索引がある。本書は6640点の進野コレクションを，分類順配列を含めて完全な電算機処理により目録としたもので，画期的な業績である。現在多くの機関や個人で電算機利用の資料整理が試みられているが，まだ十分満足できる出力を得るには至っていなかったので，その手法には学ぶべき点が多いだろう。センターが比較的後発であったため，機器の進歩と自然誌資料計算機処理の予備知識の蓄積がマッチしたこと，大型機を直接利用したこと，標本量が手頃だったことなどが成功の理由として考えられるが，同定や標本整理，データ作成のための背後の努力も無視できない。富山市科学技術センターではすべての資料を同様にデータ化しているとのことであるが，他分野の成果にも注目したい。ひとつ気になるのは，採集者が進野氏の場合は省略してあることで，これは今後多くの人の資料が加わるとわからなくなるおそれがある。データとしては手が打たれていると思うが，老婆心でつけ加える。　（金井弘夫）